

経営比較分析表（平成30年度決算）

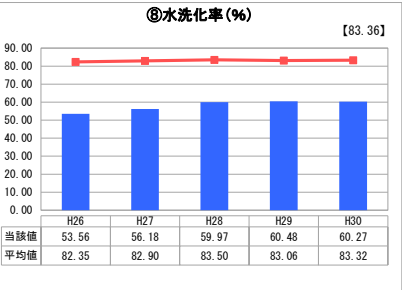
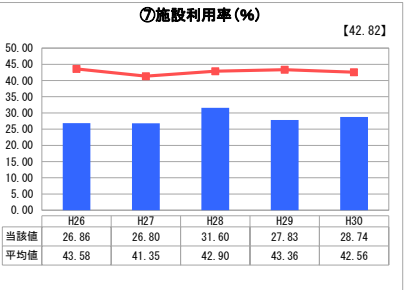
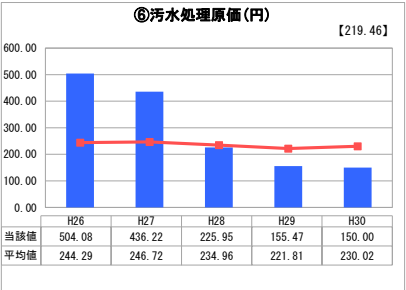
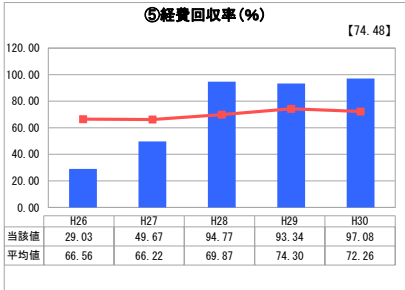
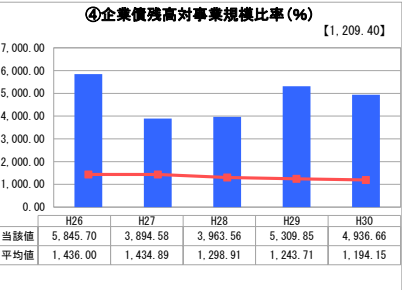
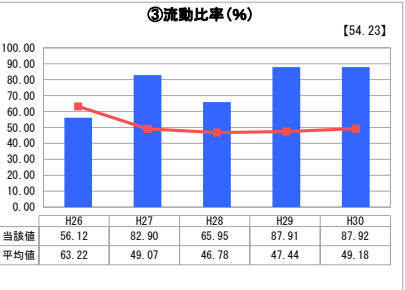
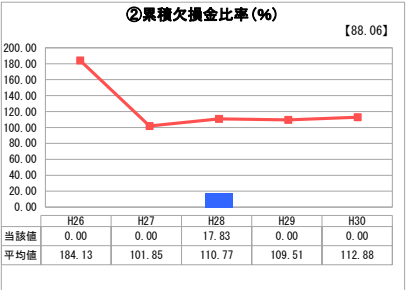
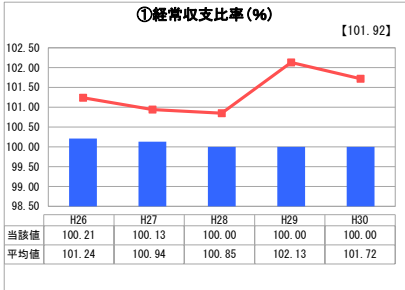
香川県 高松市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	47.48	2.17	100.00	2,461

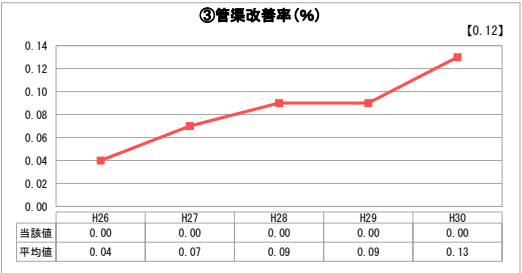
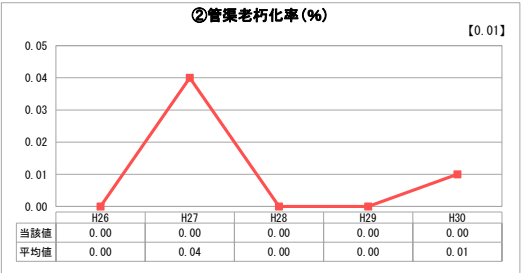
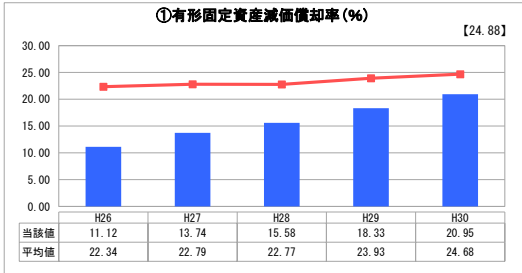
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
428,296	375.41	1,140.88
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,256	4.16	2,225.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

②累積欠損金比率については、平成28年度に土地の一部を市長部局に無償譲渡したことに伴い発生した譲渡損に伴う欠損金であり、平成29年度以降、欠損金は発生していない。

④企業債残高対事業規模比率については、類似団体平均値を上回っており、従来から、資本費平準化債を積極的に活用してきたことに加え、平成28年度には、流域下水道移管に伴い、企業債を借入れたこと等が要因として挙げられるが、今後は、施設整備事業債の借入れが減少していくことが見込まれていることから企業債残高も減少していく。

特定環境保全公共下水道は、現状では、公共下水道等と一体的に運営することで維持管理費等は、比較的安く抑えられていることもあり、⑤経費回収率及び⑥汚水処理原価については、類似団体平均値より良好な数値となっているが、地域的に人口減少がより進んでいくことが見込まれるため、⑦施設利用率及び⑧水洗化率の更なる向上は望みにくい状況である。今後、経営状況は、更に厳しさを増すものと見込まれることから、より一層、効率的な事業経営に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

特定環境保全公共下水道は、旧合併町が行っていた事業で、最も供用開始が早い町でも平成11年度からと、公共下水道よりも整備時期が新しいため、現時点では管渠の老朽化対策は行っていない。今後の更新については、公共下水道を含め、優先順位を考慮し、効率的に行っていく。

全体総括

下水道計画区域内の整備が概ね完了したことから、今後は中長期的に下水道施設全体の状態を予測しながら維持管理、改築更新を一体的に捉えて計画的・効率的に管理する方針としたストックマネジメント計画に基づき、適切な事業運営に努める。現在は、平成27年度に改定し、経営戦略を兼ねることとした高松市上下水道事業基本計画（平成24年度～平成35年度）に基づき、事業を行っているが、平成30年度に水道と下水道の組織が分離したことから、令和元年度に新たに策定する高松市下水道事業基本計画（仮称）に基づき、効率的な事業運営を実施していくが、特に、特定環境保全公共下水道の場合は、人口密度が低い地域が多いことから、公共下水道以上に効率的な事業運営を実施する必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。